

はじめに

・提言 1「駅・まち」の構成主体

自動車依存により過度に市街地が拡大して中心が空洞化し、徒歩では生活ができないまち。少子高齢化と人口減少社会が進展するこれからの社会においては、これまでのような拡散型構造の都市を見直し、一定程度集まって居住し、必要な都市機能と公共サービスを集中させるとともに、これを公共交通が中心となって支える、環境にもやさしい集約型都市構造（徒歩や自転車で暮らせるコンパクトなまち）への転換を図り、真に安全かつ快適で安心の都市づくりが求められている。

この提言は、こうした都市構造への転換に直結するまちづくりなど、今日的課題を意識しつつ、今後あるべき鉄道駅とその周辺のまちづくりについて、これまで「駅・周辺地区まちづくり研究部会」で資料を持ち寄り、意見を交わしてきた中での議論やアイデアを整理して、これからの都市づくりに資する提言として取りまとめたものである。今回の提言が、これらのことについて考える、何らかのヒントになって頂ければ幸いである。

なお提言は、以下の方々に向けて、駅や駅周辺のまちづくりが都市構造の転換にとって重要であることを訴え、同時にそれぞれの立場で考えるきっかけになって欲しいと考える。

- a. まず、利用者に対しては、自分たちが利用する駅や駅前のまちがどうあるべきか、そのためにやるべきことは何か等について、考えられることはないか。
- b. 住民の中には直接、計画や事業に関わる地権者や商店主が含まれるが、自己と公共との利害の狭間で、どのような折り合いが付けられるのか。
- c. 次に、事業関係者に対しては、都市における役割と責任を担うことで、自らの事業の発展と、都市再生に向けて、役立てられることはないか。
- d. そして行政に対しては、都市の将来像実現に向けて、駅と駅周辺のまちづくりを進めるに際して、従来の枠組みを超えて果たすべき役割とは何か。
- e. 最後に計画・設計者に対しては、それぞれの専門分野を越えて互いに協力しながら、より良い計画、設計提案を行い、これを実現するために、どのように行動すべきか。

